

## こやば コヤバ遺跡

所在地 豊田市下山田代町コヤバ地内  
(北緯 35 度 1 分 30 秒  
東経 137 度 19 分 30 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設  
用地造成事業

調査期間 平成 25 年 1 月～2 月

調査面積 500 m<sup>2</sup>

担当者 鶴飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

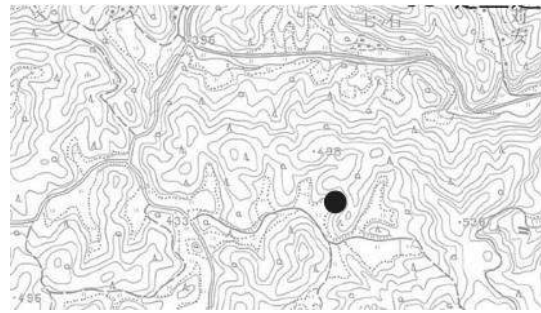
立地と環境 コヤバ遺跡は、郡界川南の下山田代町と田折町との境をなす東西に延びる尾根南側に位置し、南西方向に開口する谷とその西側の尾根裾部分を範囲とする。周辺には、北側尾根上に丸山遺跡、北東に孫田遺跡、尾根と谷を挟んだ西側には孫石遺跡が位置している。現況は山林である。

調査の概要 本調査区は尾根の裾部分と谷に土が堆積して平場となっている部分とで構成されている。谷部分の下層は湿地性堆積土層となっており、湧水が認められるので旧態は沢であったと想定される。この部分の表層からは大窯期の土器片が出土しているが、同じ層から近世末の陶磁器片も出土していることから、他所からの流れ込みだと考えられる。

遺構は、谷部分で煙道を持たない伏焼の炭焼窯（土坑状の炭焼き窯）3基（003SK、004SK、005SK）と尾根斜面で煙道を持つ炭焼窯2基（001SY、002SY）を検出した。谷部の窯 004SK からは明治時代初期の陶磁器が出土したため、近代以降の操業であると考えられる。また、尾根斜面の 001SY と 002SY の埋土からは江戸時代末期の陶磁器片が出土しており、操業は近世以降であると考えられる。更に尾根斜面の 002SY は床面に石が敷かれた窯である。焚口前の平場には屋根を支えたと考えられる柱の礎石や、炭焼きに関連した作業に使われたと考えられる土坑を検出したことから、平場は作業場だったと考えられる。

まとめ 下山地区における今年度の調査では多くの炭焼窯が確認されているが、多くはいずれも遺物を伴っておらず操業時期は不明である。本遺跡の調査において炭焼窯の操業時期を想定できる資料を得ることができた。下山地区における山に関わる生業のあり方を考える上で大きな成果を得る事ができた。

(伊奈和彦)



調査地点(国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)



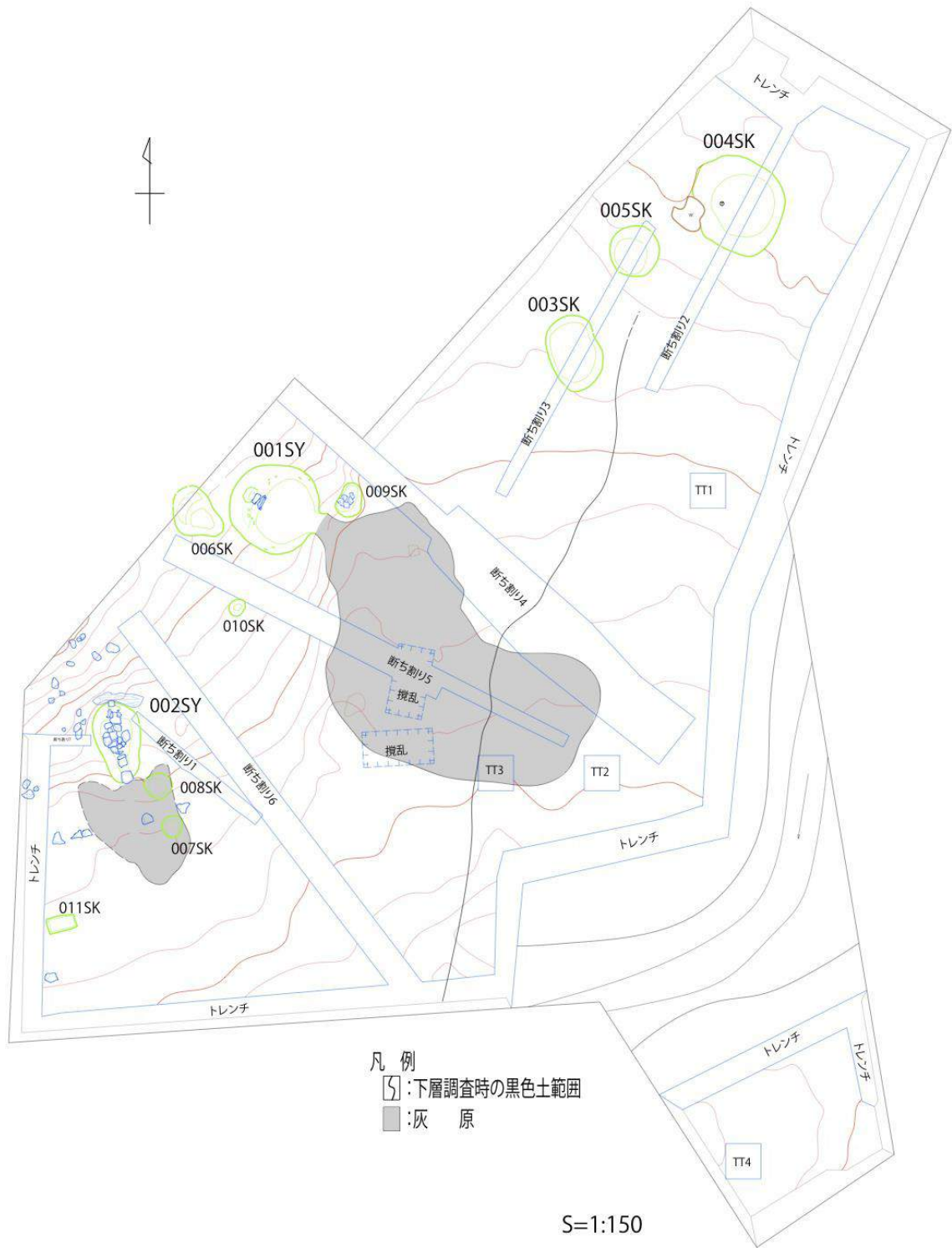
コヤバ遺跡位置図



コヤバ遺跡遠景（南から）

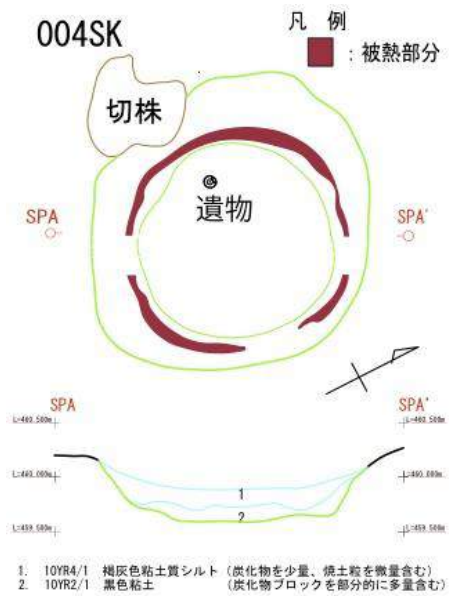


コヤバ遺跡全景(南から)



コヤバ遺跡平面図





004SK (北東から)

004SK 平面図・断面図



001SY 検出 (東南から)



001SY 半裁 (西北から)

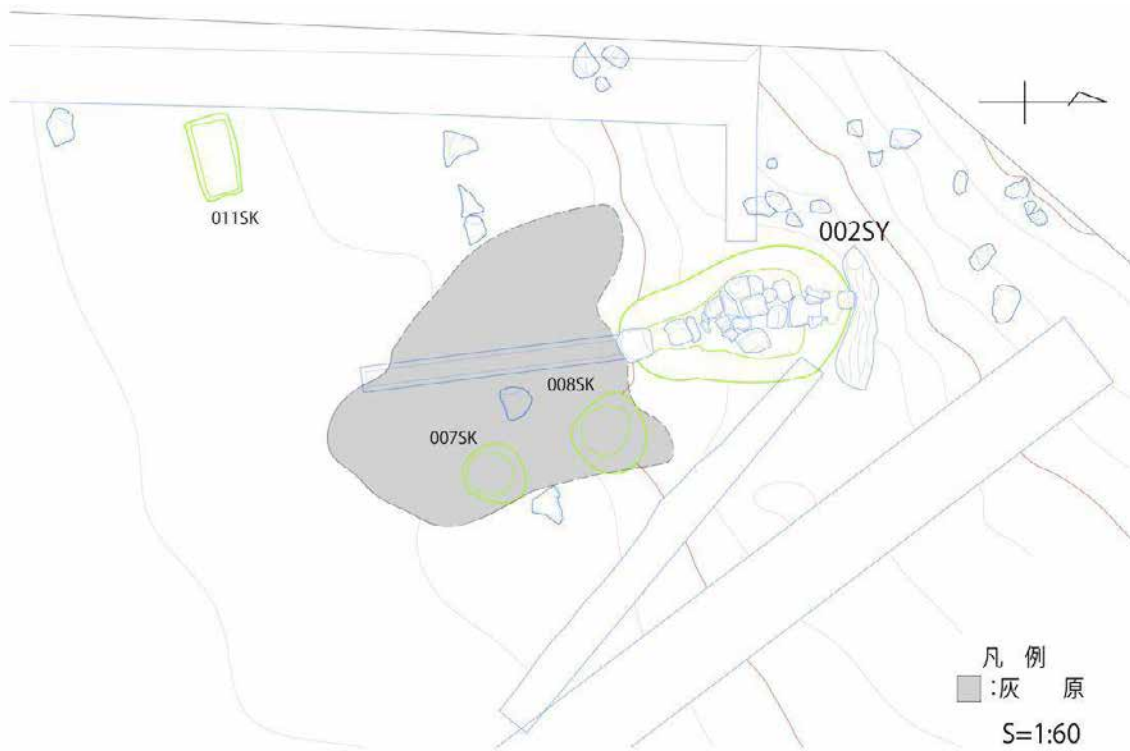


001SY 完掘 (東南から)



001SY 煙道部 (排煙口) (東南から)





002SY と周辺の平面図



002SY 半裁 (東北から)



002SY 半裁 (東北から)



002SY と平場 (北から)

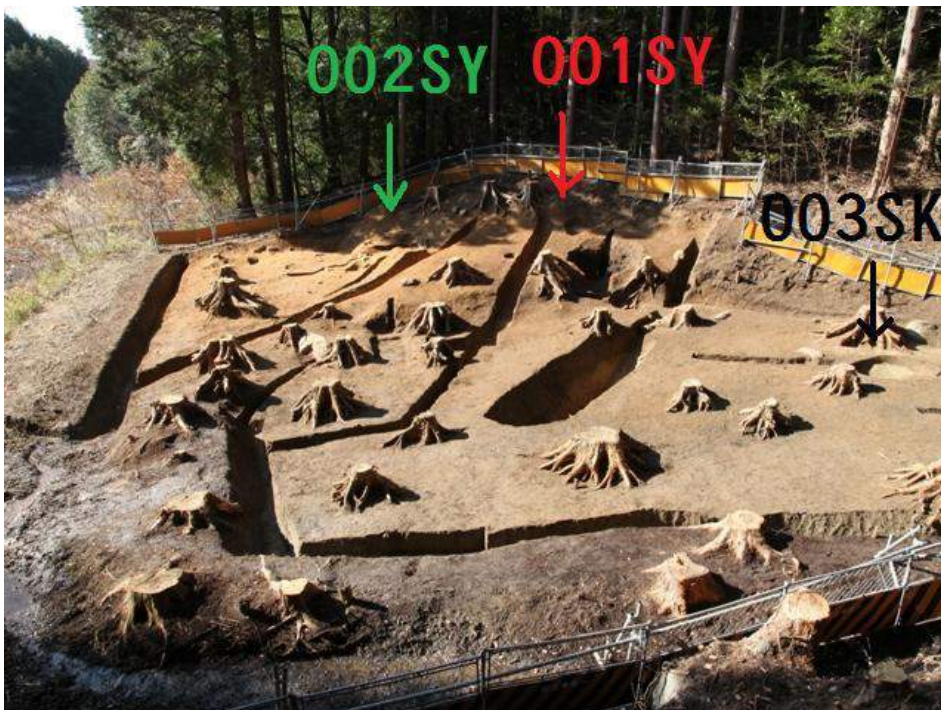


002SY 石敷き除去 (東から)





002SY（被熱で赤色化した部分）とその前の平場（南東から）



コヤバ遺跡内の遺構位置（東から）